



社会起業家

避難民支援

熱い思いがあるからこそ、あえて「既定」から外す。
これから伴走者となる皆さんへ。

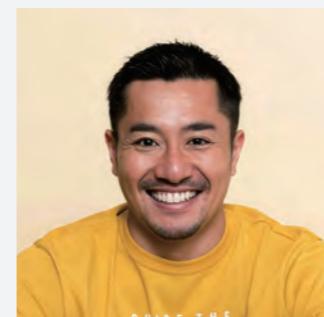
GLAキャリア・メンター

SAKASHITA Yuki

坂下 裕基 氏

株式会社BonZuttner 代表取締役社長

1987年生まれ、東京都出身。神田外語大学外国語学部卒業。大学在学中にミュージカルサークルを立ち上げる。大学卒業後、ミュージカル団体の運営や大学職員、人材広告の営業職などを経験。その傍らNGOスタッフとして東日本大震災復興支援活動にも力を入れ、2018年からは日本に暮らす避難民とともに活動するNPO法人WELgeeにコーディネーターとして参画。2019年、シリア人ITエンジニアに特化した情報システム・ソフトウェア開発事業を展開する株式会社BonZuttnerを設立。



私のスタートライン

「君はよくしゃべるけど、何もしていないだろう」。学生時代に知り合った記者が私にかけたその言葉は、夢にあふれながらも何もしていない自分を皮肉にも言い当てていました。大学ではミュージカルサークルを立ち上げ、卒業後も会社員をしながらミュージカルの夢を追い続けました。その夢に区切りをつけ、営業職として働いていた2015年、シリアの避難民が欧州国境に続々と向かうニュースが世界を駆け巡りました。のうのうと生きる自分と、死の恐怖と隣り合わせのシリアの人々。そのギャップに衝撃を受けた私は、今こそ自分にできることがあるのではないか。そんな強い思いに駆られたのです。

シリアからの避難民支援 に向けたアクション

私は人材広告の営業職として働く傍ら、NPOのコーディネーターとして日本で暮らす避難民の就業支援に携わっていました。加えてシリア人の友人を通じて、不安定な国内情勢や外交・国際政治上の理由から、大学で学びながらも高度なITスキルに見合った就業がかなわず、スキルをもて余しているシリア人学生や研究者の窮状も知りました。そうした経緯もあり、避難民問題・ITエンジニアの不足・日本の高度人材不足という3つの社会課題を解決できるソーシャルビジネスの可能性を探るようになったのです。そして2019年、IT開発をシリア人エンジニアに委託するビジネスを立ち上げました。

社会起業家として めざすもの

私が代表取締役をつとめるBonZuttnerでは、シリア人ネットワークを活かして世界中のシリア人ITエンジニアに仕事を依頼しています。現在、日本とシリアは自由な往来ができませんが、私たちの業務はすべてウェブを介してできるのが強みです。また、弊社のスタッフには、人によつては差別用語とも捉えられる言葉「refugee（難民）」は使わず、避難を余儀なくされた人「displaced people（避難民）」という言葉を使うようにしています。どのような支援も、最終的には自立につなげなければ意味はありません。つなぐだけではなく、人々の伴走者であることをめざし、今も全力で取り組んでいます。

GLAキャリア・メンターとして伝えたいこと

皆さんの中には支援を通じて人々を助ける方も多いことでしょう。しかし実際には、支援だけでは毒になることもあります。支援はきっかけに過ぎず、最終的には人々が自立をするエンパワーメントが重要だという前提の上で、これからGLA学部で学ぶ皆さんにキャリアパスを探れるようアドバイスしていきたいです。私は、国際協力の世界を志す学生が描く理想と実体とが、乖離しているように感じています。熱い思いをもってスタートを切ったからこそ、まだアーカイブ化されていない、バイアスもかかっていない情報へのアクセスが今後のカギになります。多少耳障りなことも言うかもしれませんのが、その後の留学に、数年後、数十年後かに必ず活きるヒントを差し上げたいと考えています。